



あしたの幸福

《理論社》 いうみく / 著



中学2年生の雨音はある日、一緒に暮らしていた唯一の家族の父親を事故で亡くしてしまいます。親戚も頼れず、施設にも行きたくない雨音。そんな矢先、父と生後間もない雨音を置いて出て行った実の母親から「お困りでしたら、わたしと住みますか？」という連絡がきます。

【913/イ】 雨音は母親と同居することを決意します。父方の祖母には「欠陥人間」と称されていた母親は、一体どんな人物なのか？血のつながりはあるけれど、共通の思い出をもたない親子の共同生活が始まります。

登場人物全員が過去に傷ついた経験をし、それでも今をより良く生きていくために日々もがいています。

中学生という年齢は、法律的にはまだまだ子どもとして扱われますが、親と子の一対一の関係の中では、大人と同じように扱われることが増えてきます。図書館の読者のみなさんの中にも、この中途半端な立場に悩んでいる人がいるかもしれません。この本を読むことで、解決の糸口を見つけられるかもしれません。

直感とちがう数学

《Gakken》葉一／監修、タカタ先生／原案、カシワイ／絵

数学のテストで、どうしても解き方がわからなくて問題に出ている数字からこれくらいだろ！と予想して答えたことはありませんか？数学が大の苦手だった2号にはよくありました。そして、その度に悲惨な結果に終わっていました…。でもそれは当然だったんだなとこの本を読むと思います。

1クラス35人の生徒の中に1組でも同じ誕生日の生徒がいる確率はどれくらい？とか、99%が水分でできた1000gのスイカ、水が抜けて水分が98%になった時、スイカの重さは何gになった？など、感覚で正解に近い数字が出せそうな数学の問題が全24問。ぜひ直感だけで答えてみてください。驚きの答えが待っています。何でそんな答えになる？という疑問も解説を読めば納得。人間の直感がどれだけ当てにならないかということと、数学の楽しさが味わえます。【410.4/千】

特に読んでおいてもらいたいのが、ゲームのガチャを題材にした確率の問題。数字を鵜呑みにすると思わぬ損をするかもしれない、そんな怖さもわかる1問です。



CHOCOLATE DESSERT

チョコレートで作る極上デザート
《成美堂出版》 小山 千尋 / 著

この図書館が発行される頃には2月ですね。2月といえばそう、バレンタインデー！義理と本命の激しい争いに、友チョコという新派閥が登場したのは、私が大学生の頃からですかね…まあどれにも縁のない人生(現在進行形)ですが(泣)

私の人生はどうでもよくて、チョコで何か作るならこの本を参考にしてみてもどうでしょうか？写真も交えつつ、所々にポイントも書いてあるこの本を見ながら作れば、準備はちょっと大変かもしれませんが、その分立派なお菓子が作れる…かも？！



料理が作れなくても、こういうレシピ本は見ただけでもおながいです。違う料理が見たくなったら、2Fの10~12番の棚に料理の本が取り揃えてあります。

【2F ポピ H596.6/千】



阪急電車

《幻冬舎》 有川 浩 / 著



2月、3月のイベントといえば、バレンタインとホワイトデー！！

ということで、今回は恋愛要素が強めの小説を紹介します。

この作品は、実際に関西にある阪急電鉄今津線の車内を舞台にした、連作短編集です。一駅ごとに主人公が代わり、同【F913.6/アリ】じ電車に乗っている乗客それぞれの人生を垣間見ることができます。

車内での偶然の出会いや出来事をきっかけに、恋の始まりから恋の終わりまで、様々な恋愛の瞬間を味わうことができます。この本を読む前と後では、電車に乗るときの気持ちがきっと変わるはずです。電車内での「あるある」も登場するので、特に電車通学している人にオススメです。

ただし、この小説が書かれたのは2008年。今よりもずっと電車内でスマートフォンを使う人が少なかった頃なので、みなさんには少し馴染みのない車内の光景が広がっているかもしれませんね。



学校では教えてくれない自分を休ませる方法 《KADOKAWA》 井上 祐紀／著



【498/カ】

「今日はなんとなく学校行きたくないな」、「授業の発表、嫌だな。サボろうかな…」。

一度くらいそう思ったことがある人はきっと多いはず！「あわよくば明日、熱でも出ないかな〜」と私も願ったことがありましたが、幸か不幸か、願いが叶うことは1度もありませんでした…。

この本では、「休みたい」と思う自分の、自己分析の仕方が詳しく書かれています。自分がなぜ休みたいと思うのか、どうすることで自分を本当に休ませてあげることができるのか、順を追って分析を進めることにより、自分自身の思考の癖についても知ることができる本となっています。

進級によるプレッシャーや、クラス替えによって周りの環境が変化したりと、春はストレスを感じやすい時期だと思います。1年を走り抜けるために、まずは自分を休ませる方法を知ってみるのもいいかもしれませんね。



アンナ・カレーニナ1・2 《光文社》 トルストイ／著

【2F ポピ B983/トル/1・B983/トル/2】

みなさんには「推しの俳優/女優」っていますか？

私はアミューズ所属(R5/2/17 現在)の渡邊圭祐さんが推しです。あまり紙幅は割けないので気になったら調べてみてください…イケメンが出てくるので…

さてその渡邊圭祐さん、2月〜3月に劇に出演されていたんですが、その劇の原作こそがロシアの名作文学、『アンナ・カレーニナ』なのです。

舞台は1870年代のロシア。社交界の花アンナは、夫がいながらも、青年将校ヴロンスキーとの恋に落ちてしまいます。アンナの兄嫁の妹、キティはヴロンスキーに思いを抱いていましたが、無視されて病を患い、自分が一度結婚の申込を断った地方地主、リョーヴィンと結婚します。

アンナとヴロンスキー、キティとリョーヴィンという二組の愛はそれぞれどのような結末を迎えるのか…

ちなみに、渡邊圭祐さんはヴロンスキー役でした。



答えは風のなか

《朝日出版社》重松 清／著、ミロコマチコ／絵

スポーツ万能な中村くんと仲良くなりたいと思っていた「ぼく」。席替えてその中村くんと隣の席になったぼくは、中村くんがシャーペンの芯がなくなって困っていたので分けてあげた。中村くんはぼくのことを「いいヤツだ」と言ってくれて嬉しかったけど、それから中村くんはぼくに色々頼みごとをするようになる。しかも、中村くんの友達まで同じようにぼくに頼んでくるようになった。(「いいヤツ」より)

主に子どもたちの視点で、誰もが直面するかもしれない日常の中の胸がモヤモヤとする出来事や、今の世の中が抱えている社会問題をリアルに、けれど優しく描いた10の物語から成る短編集です。「答えは風のなか」という本の題名のとおり、掲載されている物語の多くは作中で答えがハッキリとは提示されません。もしみなさんが主人公と同じ立場になったら、どんな答えを出しますか？

世の中の様々な事情が分かるようになってくる中高生のみなさんに、1度は読んで、そして考えてみてほしい作品です。



【F913.6/シケ】



バカ日本語辞典 《技術評論社》谷ロ ーノ／編著



今ではきちんとした意味で使っている言葉でも、小さい頃や実は最近まで、まったく違う言葉として認識していたことはありませんか？

そんな、きつと誰にでもあったであろう、全然意味をはき違えた日本語を集めたのが今回紹介する図書です！タイトルにあるように、この辞典では日本各地(!?)のおバカが、各々思い描いている意味でその言葉を紹介しています。

辞典ときくと堅苦しい印象があるかもしれませんが、この辞典は過去に勘違いしていた意味を載せている、「正しくない」辞典なので、楽しく最後まで読めることでしょう！中には絶対に「これ自分もしてたな……」という言葉もあるはずですよ(私は1つどころじゃない数ありましたよ)。